

巻 頭 言

取締役
化学事業部長 大西正之



化学分野の特集号は、1992年 (Vol. 24 No. 2) について2回目である。前回の特集では、川崎製鉄と関連企業グループが総合素材メーカーとして、鉄以外にも化学・新素材などへの多角化を推進し、これに伴う開発の成果と新製品・新技術の一端を紹介した。

当社の化学製品事業は、その基盤をコークス製造工程で副生するコークスガス、粗軽油、コールタールを原料とした芳香族系基礎化学品事業ならびに鋼板の酸洗廃液から回収した酸化鉄をベースにした事業である。

ベンゼン・トルエン類、ナフタリン、無水フタル酸、電極用ピッチなどの化成品では従来からの需要に加えて、高機能炭素材である球晶の需要が近年急速に拡大した。これは、リチウムイオン二次電池用負極材の急激な需要の増大に対応しており、技術開発の成果が実ったという点で大いに喜ばしいことである。

また、酸化鉄をベースにした事業では、関連企業で酸化鉄を原料としてソフトフェライト用仮焼粉やソフトフェライトコアに事業を展開した。このように、原料酸化鉄からソフトフェライトコアまでを一貫した体制のもとで製造できる利点が効果的に作用し、川鉄フェライト(株)では水島工場のコア生産に加え、1996年にはソフトフェライトコア事業のタイ進出を決定し、1998年初めからの本格稼働へと事業を拡大している。

さらにまた、当社は製鉄事業に密着した上述の化学製品事業に加え、三大素材のひとつとしての樹脂分野への進出を決定し、1990年にスタンパブルシートの製造販売を行うケーブラシート(株)を設立した。同社が採用した製造方法はウィギンス・ティープ社の抄紙法という技術である。この特徴ある製造法を生かした膨張成形加工品が自動車分野で本格採用されてきた。スタンパブルシートは、軽量で形状保持性と強度とのバランスを兼ね備え、さらに、吸音特性に優れた材料であることから、天井材など多くの需要に応えられる製品に成長した。そのほか、ボードや耐衝撃用部材といった用途が開発されている。

当社の樹脂事業のもう一つの柱であるコンパウンド事業については、1991年のK-LNP社設立当時の生産拠点はアメリカとオランダの2ヶ国であったが、その後の6年間にイギリス、フランス、マレーシアと3ヶ国が増え、全世界的規模で順調な事業展開をしている。国内における樹脂コンパウンド事業は、当社が特許を有する長繊維強化熱可塑性樹脂を中心として国内顧客向けに順調に販売を伸ばしている。国内と海外の関連企業グループの密接な連携のもとで、それぞれの立地を活かした展開が行われているのも、コンパウンド事業の特色である。

本特集号では、化学分野の製品や用途に関連して最近開発された成果を7編の論文および4

件の新製品・新技術として紹介している。これらの製品や用途の開発はお客様のニーズとご指導により完成させられるものであり、多方面からのご批判、ご指導を仰いで、今後とも皆様に満足していただける製品、技術の創出をめざしていききたい。